

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北海道)	良く なっている やや良く なっている	-	-	-
		商店街（代表者）	来客数の動き	・地域住民の消費活動はほとんど変わらないが、消費税増税の影響が薄れてきたため、外国人観光客とともに、道内外からの旅行者が前年より多く訪れている。当地域の夏の最大イベントにおいても、前年と比べて4万人以上の来街者の増加となった。これにより、飲食は元より、宿泊業、交通関連、お土産品などで売上の増加があったとともに、衣料品及び装飾品でも旅行者を中心に売上を伸ばした。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・中国語圏の観光客が増えたことから、売上は前年比110%となった。特に、晴天が続き、北海道らしい初秋のなか、豪華客船が9隻入港したこと、今年で5回目を迎えた地元のイベントが行われたことの効果が大い。
		百貨店（売場主任）	来客数の動き	・他店とのセール時期のずれもあり、売上は前年比92%程度にとどまっているが、来客数は前年比99.5%と前年並みに復調している。また、セールの売上が前年比90%となっているのに対して、秋物の定価品が前年比92%となっており、暑い夏を過ぎて需要が秋物にシフトしている。ウェアの動きはまだ鈍いが、婦人物のシューズ、ブーツなどのファッションアイテムに動きが出ている。
		百貨店（売場主任）	来客数の動き	・来客数がこれまでの前年比80%台から、前年比90%台に増加しており、若干の回復傾向がみられる。
		百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・消費税増税以降、来客数の減少は続いたままだが、購買客数、客単価が上がってきており、景況感が良くなりつつある。
		百貨店（販売促進担当）	それ以外	・5月と比べて、消費税増税後の反動減のマイナス幅は縮小してきている。ただ、4月以降、徐々に回復基調にあるものの、前年実績までには至っておらず、回復が早いと報道される首都圏とは温度差がある。
		スーパー（役員）	お客様の様子	・盆期間の曜日並びが良かったこともあり、客の動きが活発だった。お金に余裕が出てきたように感じられる。
		衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・気温の上昇とともに、夏の各イベントが行われていることで街に活気が戻り、観光客などでにぎわっていた。水産関係もさんまやいわし、いかなどが豊漁で物流も良くなっている。着物展示会などの催事でも高額商品に動きがみられ、売上増加に結び付いた。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・前年と比較して、販売量が若干上向いている。
		その他専門店〔医薬品〕（経営者）	来客数の動き	・3か月前は消費税増税の影響の真只中であつたが、今月に入り、ようやく客の動きが落ち着いてきた。
		観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・中国本土からのチャーター便による来客が好調である。国内旅行も個人客、団体客ともに好調である。その反面、Webサイトでの客室提供が困難になっている。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・天候不順であつたが、農作物の作況などに大きな影響は出ていないため、管内の航空需要はやや上向きになっている。
		通信会社（企画担当）	販売量の動き	・値引き幅を小さくしたにも変わらず、地区を問わず、幅広い世代で通信機器の販売量が前年比で2割以上伸びている。
		設計事務所（所長）	お客様の様子	・価格に対する客の反応が変わってきた。余裕があるのか、あきらめなのかは分からないが、いずれにしても、これまで高額で敬遠されていた商材が売れるようになってきた。
	変わらない	商店街（代表者）	来客数の動き	・消費税増税の影響が薄れてきたなかで、天候不順の影響で来客数が減っている。

商店街（代表者）	販売量の動き	・消費増税の反動が収まり、そろそろ回復基調に転じるかとみられたが、実際にはそれほど良くなっていない。天候も気温も落ち着いていることから、北海道の景気回復は足踏み状態にある。また、GDPの落ち込みが報道されたことから、消費が慎重になっていることが心配される。ただ、8月の国内観光客は数こそ少なかったものの、客単価に若干の上昇がみられた。これは全国的な景気回復基調が要因とみられる。
百貨店（売場主任）	来客数の動き	・夏物のセールも終盤を迎えたが、商材が品薄だったこともあり、婦人服、紳士服とも売上は前年比90%台前半であった。また、8月下旬から秋物の展開を始めているが、気温の低下とともに動きがみられるものの、まだ、前年並みの水準にとどまっている。
百貨店（役員）	販売量の動き	・過去2か月と比べて、多少は動きが出てきているが、上向くところまでは至っていない。特に、高額品やインポートブランドの動きが鈍い。
スーパー（店長）	来客数の動き	・消費増税の影響もあるが、ガソリン価格の高騰や高速道路料金の休日割引の縮小により、土日の来客数の減少が続いている。
スーパー（役員）	来客数の動き	・8月10日までの既存店ベースの来客数は前年比96%台と、7月と同様に非常に厳しい状況で推移していたが、お盆後の17日までの来客数は100%まで回復した。しかし、その後は月前半と同様に来客数が伸び悩んでいる。ただ、売上については、客単価が前年比103%強で推移していることもあり、7月と比べて前年比が2%ほど上昇している。
家電量販店（地区統括）	販売量の動き	・消費増税前の駆け込み需要からの回復遅れが予想以上に長引いている。特に、エアコン需要については、前年より過ごしやすかった気候のせいもあり、大きく落ち込んでいる。
乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・季節柄、2月と8月は決算期前で販売量の減る時期であるが、周りをみても駆け込み需要がなく、苦戦している状況にある。
乗用車販売店（役員）	販売量の動き	・新車、中古車ともに、受注量が一方向に上向いてこない。受注残もなくなってきており、売上にも影響が出てきている。
自動車備品販売店（店長）	来客数の動き	・7月以降、消費増税の影響が和らいだ雰囲気があったが、競合店を含めて、8月に入っても売上が前年を下回ったままである。
高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・前月に続き、夏休み期間であるにもかかわらず、混雑による長時間待ちがない。消費増税の影響はまだ残っていることに加えて、特に今年は天候不順による交通機関のまひなども影響して、来客数は前年を10%下回った。
高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・8月はぎりぎり前年並みの売上となった。もう少し売上が増加することを期待していたが、比較的、天候が良かったことでレストランではなく、ビアガーデンに向かう客が多かった。週末のランチで割高メニューが売れるなど、一部では景気回復の動きも感じられるが、客の多くは消費増税を受けて消費を控えているようであり、全体的には客単価が上がってきていない。地方では千円前後のランチが主流となっているが、当地では低価格競争が厳しく、当店にとって荷が重い状況となっている。
観光型ホテル（役員）	来客数の動き	・3か月前と変わらず、個人客と外国人団体客の入込が堅調に推移している。
旅行代理店（従業員）	それ以外	・同じ業種の客であっても、売上の良いところとあまり思わしくないところがあるようで、何を基準に景気を判断すれば良いのかわからない状況にある。
タクシー運転手	来客数の動き	・8月上旬は雨の日が多く、タクシー利用も前年より多かったが、中旬以降は天気の良い日が多く、涼しくなってきたため、タクシー利用が前年より減っている。1か月全体の売上では前年を若干下回った。
タクシー運転手	販売量の動き	・8月は様々な催し物がある月であり、なおかつ現在、観光客の入込が増えていることもあり、人の流動性が良くなっているのは確かだが、そうした動きがなかなか売上に繋がってこないジレンマがある。
タクシー運転手	来客数の動き	・7月の売上は微増となったが、ほぼ前年並みの水準であった。
美容室（経営者）	来客数の動き	・ここ数か月、同様の来客数を保っており、良くも無いが悪くもない状況が続いている。

	住宅販売会社 (経営者)	お客様の様子	・食品や雑貨など、単価の低い商材は消費税増税後の買い控えから回復しつつあるが、住宅や自動車などの単価の高い商材は売上が非常に厳しくなっている。
	住宅販売会社 (役員)	お客様の様子	・最近の傾向として、客の二極化が明確になってきている。都心部の高価格帯の分譲マンションでも購入できるような客がみられる一方で、都心からやや離れた地下鉄駅近くの高騰を続ける新築分譲マンションをあきらめて、中古マンションを探している客もみられる。分譲マンションの市場規模は今が限界とみられる。
やや悪くなっている	商店街(代表者)	販売量の動き	・飲食関連に限定すると、雨などの天候不順による交通機関の乱れの影響で、帰省客や地元客の利用が前年よりも減少している。
	商店街(代表者)	お客様の様子	・客の様子をみると、やや景気が悪く、買物をする商材の数を抑えようという方向にある。
	一般小売店[土産](経営者)	単価の動き	・売れ筋商品に単価の高いものと低いものがある場合、消費税増税後は特に単価の低いものが売れるようになり、単価の高いものほど敬遠される傾向が顕著になっている。
	スーパー(店長)	販売量の動き	・8月は消費税増税の影響があった5月よりもさらに悪くなっている。8月の販売量は前年比94%であり、3か月前と比較しても3%程度落ち込んでいる。
	スーパー(企画担当)	来客数の動き	・消費は回復するどころか、段々と落ち込んでいる。
	コンビニ(エリア担当)	来客数の動き	・当地では、8月のさんまの漁獲高が前年比130%となっている港もあり、漁業が少し上向きになってきている。
	コンビニ(オーナー)	単価の動き	・来年の消費税増税を気にしている客が多く、買い控えが進んでいる。日々の買物においても、価格に対して非常にシビアになるなど、まだデフレが進みそうな気配がある。
	衣料品専門店(店長)	来客数の動き	・消費税増税の影響がみられる。
	家電量販店(店員)	販売量の動き	・8月後半の売上は前年を大きく下回った。お盆後の来客数も前年を下回って推移した。客は必需品以外をまだ買わない傾向にある。
	その他専門店[ガソリンスタンド](経営者)	販売量の動き	・ガソリン価格などの高止まりにより、販売量が低調である。
	旅行代理店(従業員)	販売量の動き	・前年と比べて、販売量が良くない状況にある。
	タクシー運転手	販売量の動き	・夏休みに入り、観光客の増える時期となっていることもあり、3か月前と比較して、売上が約16%増加しているが、前年は約27%も売上が伸びていた。また、前年の売上との比較でも、約7%の落ち込みであることから、やや悪くなっている。
	観光名所(従業員)	来客数の動き	・8月26日現在、来客数が前年比88.6%となっていることから、やや悪くなっている。
その他サービスの動向を把握できる者[フェリー](従業員)	来客数の動き	・台風を始めとする天候悪化により、フェリーの欠航が増加したことから、輸送量が大きく落ち込んだ。	
悪くなっている	コンビニ(エリア担当)	販売量の動き	・消費税増税後、来客数に大きな減少はないが、たばこやアルコールといった好品の販売量の減少に歯止めがかからない。また、8月は天候不順の影響もあり、ピークの売上を確保できなかった。
企業動向関連 (北海道)	良く なっている	-	-
	やや良くなっている	家具製造業(経営者)	受注量や販売量の動き
	通信業(営業担当)	受注量や販売量の動き	・受注量が前年から10%程度の増加で推移している。一方で、供給力が追い付かず、すべての受注に対して対応できない状況になってきている。

	金融業（企画担当）	それ以外	・消費増税の影響は薄れている。建設関連は住宅着工が落ち込んでいるが、公共工事は高水準が続いている。観光は天候不順の影響で国内観光客数が横ばいで推移しているが、外国人観光客は大幅に増加している。一方、建設業を始め多くの業種で人手不足が深刻化している。	
	その他非製造業〔鋼材卸売〕（役員）	受注量や販売量の動き	・3か月前の消費増税の影響による受注減と比較すると、一気に需要が回復している。さらに、設備案件が例年にならぬほど多く、好調に推移している。	
変わらない	食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・消費増税後の需要がほぼ平常に戻っている。	
	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・3か月前と比べて大きな変化はないが、前年よりは少し動きが良い。	
	建設業（従業員）	受注量や販売量の動き	・民間工事において飛び込みの工事打診がみられるが、当社の人員、協力会社の確保が困難なことで断っている状況にある。	
	輸送業（営業担当）	取引先の様子	・製紙工場の生産は順調である。飲料品については、各メーカーとも東日本での販売に苦戦していることで、前年から2割近い落ち込みとなっており、本州向けの輸送量が予算を下回っている。一方、西日本での販売は現在も猛暑が続いていることで順調な売行きとなっている。	
	輸送業（支店長）	取引先の様子	・第2四半期に入り、荷動きに若干の減速感がある。在庫に滞留傾向がみられるため、本格的な流通につながっておらず、繁忙期がずれ込んでいる。	
	司法書士	取引先の様子	・不動産関連については、以前と比較して動きが落ち込んでいる。市街地の空地がますます多くみられるようになっている。	
	司法書士	取引先の様子	・土地の売買、建物の建築が依然として減少している。	
	司法書士	取引先の様子	・消費増税後、景気は低迷したままである。景気回復の兆しがなく、物価上昇の影響だけが残り、不動産取引も停滞気味である。	
やや悪くなっている	建設業（従業員）	取引先の様子	・建築鉄骨製作者で、本州向け製品を扱う工場は潤沢な仕事量があるが、道内向け製品に限定される工場は仕事量が底を打ち始めている。製作単価も総じて低い水準で推移している。	
	その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	受注量や販売量の動き	・一時的だと思っていた消費増税による設備投資の減退が予想以上に長引いている。	
悪くなっている	-	-	-	
雇用関連	良くなっている	-	-	
(北海道)	やや良くなっている	求人情報誌制作会社（編集者）	それ以外	・農業関連の収穫繁忙期を迎えているが、季節雇用の人材不足により働き手の確保に苦心している。
		求人情報誌制作会社（編集者）	求人数の動き	・人材募集が景気好調によるものか、人手不足によるものか、業種によってばらつきがある。個人消費関連は力強さを感じない。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は前年から2.2%増加し、54か月連続で前年を上回った。月間有効求人数も前年から7.1%増加し、54か月連続で前年を上回った。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・一部の業種で求人数の減少がみられるものの、全体としては求人数の増加傾向が続いている。非正規求人の占める割合は高いが、求人倍率は記録が残る平成元年以降で最も高い10.98倍となった。
変わらない	人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・求人倍率が高止まりし、企業の求人ニーズも高まっているが、求職者の動きが鈍い。求人が多数あるため、いつでも採用されると考えて、焦って就職活動をしていないとみられる。有名企業への応募は盛んなようであるが、あまり有名ではない中堅企業への応募は特に増えていない。	
	職業安定所（職員）	雇用形態の様子	・7月の新規求人数は前年を1.8%上回った。新規求職者数は前年を5.9%下回った。月間有効求人倍率は0.83倍となり、前年の0.79倍を0.04ポイント上回った。しかし、新規求人数のうち正社員求人の占める割合は44.8%と低く、求人者と求職者との間における職種や条件のミスマッチも少なくないことから依然として厳しい状況にある。	

やや悪く なっている	人材派遣会社 (社員)	採用者数の動き	・人気のない業種の求人が多く、需要はあるのに採用 人数が充足しない状況にある。
	求人情報誌製作 会社(編集者)	求人数の動き	・6月以降、前年と比較して求人数が減少している。 背景には、人が集まらないことに対する疲弊感もあるが、消費税増税によるコスト増も影響している。
	新聞社[求人広 告](担当者)	求人数の動き	・8月の募集広告の売上は前年から8%の減少とな り、ここ数年ではみられないマイナス幅だった。収穫 期を迎えた加工製造業の売上は大きく伸びたが、派 遣、医療、小売が軒並み激減した。
	職業安定所(職 員)	採用者数の動き	・7月の就職件数が前年を下回っており、5か月連続 で減少している。
悪く なっている	-	-	-